

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年1月4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204185		
法人名	株式会社 アイリーフ		
事業所名	グループホーム アイリーフ五日市		
所在地	〒731-5116 広島県広島市佐伯区八幡2-23-15 (電話) 082-926-2736		
自己評価作成日	平成23年10月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470204185&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成23年10月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者様・ご家族様が安心して豊かな暮らしをして頂くために、地域の方々やボランティアの方々に協力をいただきながら暮らしの支援をしています。また、「思い出から、現在、そして未来へ」と、思い出を現在に繋ぐ生活史を引き出すために、「家庭訪問」を実地しています。過去の毎日の生活の積み重ねの延長線上に現在があり、日々新たな生活が積み重なっています。生活史のエピソードを未来に繋げるケアを実践しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームアイリーフ五日市（以下、ホーム）は、交通至便な住宅地にあり、法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所が併設されています。地域の一員として町内会活動に参加し、地域資源の活用や法人と連携した施設機能の還元など、地域に溶け込み、お互いが支え合う関係を築かれています。</p> <p>職員は入居者へ理念である「あたたかい家庭の雰囲気 そのままに」を提供できるよう、取り組まれています。入居後もこれまでの暮らしが継続できるよう、入居者のできることや特技を活かして、家事や畑づくり等を一緒に行われています。入居者や家族が意見・要望を言いやすいように工夫されており、ホームとして最大限の支援ができる体制を整えられています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	『暖かい家庭の雰囲気そのままに』を理念とし、各ユニットに掲示。カンファレンスの際に唱和し、「どのようにしたら家庭的な雰囲気が醸し出せるか」と、職員全体で話あっている。また、法人理念である『光をもって道を照らし介護に使命を率先垂範する』を実践していくため、地域包括支援センターなどの外部機関とのノウハウの共有に努めている。	法人理念を基盤にホーム独自の理念を掲げ、地域に根ざした信頼される福祉事業を目的に取り組まれています。また、ホームでの暮らしが家庭により近い生活環境となるよう、そして、職員一同が理念を共有し実践できるよう努められています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会組織に属し、町内の行事やお祭りなど、「利用者と地域が繋がる場」づくりに努めている。また、地元の保育園園児の皆さんとの交流や中学生の「職場体験の受け入れ」などを通じて、世代間交流を図っている。	町内会に加入し、地域の活動や情報を把握されています。また、地域の一員として、職員が地域の安全パトロールに参加しています。また、地域住民からは見守りや声かけなどの協力を得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域介護教室や認知症サポーター養成研修などの啓発者(講師)として、認知症の理解や接し方や近所付き合いの大切さなどの紹介や講演をしている。また、地域の皆様が気軽に相談に来られる「介護相談窓口」であることの掲示を入り口に掲げている。認知症の家族の会との連携による研修にも企画・参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2か月ごとに開催している。会議では、利用者の暮らしの様子等を報告し、参加メンバーから、質問や意見の情報交換の場となっている。また、参加された方々より地域行事(とんど祭り、運動会、敬老行事、秋祭りなど)へお誘い頂くなど、本会議が地域と利用者をつなぐパイプとなっている。	会議は、地域住民代表、老人会役員、家族、地域包括支援センター等の参加が得られています。会議では、ホームの状況報告を行ったり、参加者から地域の情報を得たりして、サービスの質の向上に活かされています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	佐伯区行政(長寿社会課・介護保険課)、認知症アドバイザー連絡会との連携による「認知症介護啓発」や、佐伯区社会福祉協議会・佐伯区ボランティアセンターと連携をとり、外部からの支援者を受入れることにより「日常の変化」「楽しみの工夫」について協力を頂いている。	行政職員とは、必要に応じて連絡を取り合い、助言を受ける関係を築いています。ご近所福祉クリエイターである施設長は、講師として活動しながら、広く地域福祉に貢献されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束」ということについて、スタッフ全体が認識を共有するために、マニュアルを活用した研修会を行っている。居室出入り口はもとより、ホール出入り口の施錠、ベッド柵や車イスの利用用途など、いろんな角度からの推移を基に、その考え方を広げ、確認し合っている。</p>	<p>共有スペースや玄関入口などに、反射鏡やセンサーを取り付け、なるべく入居者の行動を制限せず安全に過ごせるよう工夫されています。職員は、入居者にとってちょうど良い距離感を保ちながら見守りを徹底されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部講師を招いての研修会を企画・実施。他の介護事業所へも参加を呼び掛け、学習の場を共有する中で、情報交換を行っている。スタッフ間において「その声掛けは、どうなのか」「自分が言われたらどうなのか」など、「無意識のうちにしていること」を話合える雰囲気づくり・時間づくりに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議の中で、ご参画の「地域包括支援センター」より権利擁護に関する制度、成年後見制度等をご教示頂いている。また、当法人の顧問弁護士より必要の都度、助言を頂き、利用者家族に情報提供を行っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>「説明した」と「説明できた」ことの違いを肝に銘じ、契約時には、出来るだけ「解りやすい表現」をもって説明をさせて頂いている。また、契約後も、不安や疑問などあればいつでも、必要の都度対応させて頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>「直接、口に出して伝えにくい」という状況への配慮として、毎月のお手紙の中に、「ご意見・ご要望」の用紙と返信用封筒を同梱し、家族会代表へ届くようにしている。また、日頃の場面や家族の面会時、家族会で意見や要望を確認し、出された意見・要望については、リーダー会議で協議し、運営推進会議にて提案。結果について書面や家族会等で家族に周知している。</p>	<p>家族の訪問時には積極的に声かけを行い、意見を言いやすい雰囲気づくりに努められています。また、職員の顔写真と名前をホーム内に掲示し、相談しやすい環境を整えられています。毎月、家族へ手紙と共に意見・要望用紙を発送するなど、意見を言いやすい機会づくりに取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各種委員会を設置し、職場の改善要求やリスクマネジメントなど、代表者(施設長)に意見具申できる環境を整えている。意見を受けた代表者は、法人本部に設置された『五人会(施設長会議)』にて協議し、現場反映に努めている。	日頃から意見を伝えやすい雰囲気づくりに努められています。ホームが設置している委員会では、各職員が担当を受け持ち、気づきや提案を運営に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	「私のマニフェスト」を個々に掲げ、「なりたい自分像」に向けて、自分で自分自身の研修が企画・実施できる『一日ぶらぶら研修制度』を設け、スタッフのモチベーションアップを図っている。また、毎月、頑張っているスタッフ1名を投票選出(各ユニット)して、讃える『月刊MVP制度』を導入し、「やりがいのある職場づくり」を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	期毎に『チャレンジシート』を個別に作成。併せて『私のマニフェスト』により、自己目標の設定を行い、「自己課題解決」に向けての研修設定を行っている。法人全スタッフ対象の「スタッフ全体研修」や「管理者研修」などに力を入れ、「外部講師が務まるスタッフの養成」を目標としている。県介護職員研修支援事業によるスタッフの派遣を受け、スタッフが平等に研修を受けられる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	県内のグループホーム連絡会「ぼちぼちこうねつ」に参加。交流研修会や親睦会などを共同により企画・実施している。また、内部研修にも積極的に外部への参加呼びかけを行い、研鑽し合う関係づくりに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	『ラポール(和やかな人間関係)』を本分に、「受容的態度」をもって接することに努めている。特に、周辺症状から本人の「今の気持ち」が洞察できるよう、対面初期の段階より「私の気持ちシート」を活用するなど、現状分析による信頼関係づくりに力を入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>「お世話になっている」と『負い目』を感じておられるであろう家族の気持ちの理解を大切にしている。「思い」が出しやすい環境の整備や雰囲気づくりに心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>『本人ケア』は、もとより『家族ケア』ということも含めて、初期の段階より「将来の見通し立て」を行い、「今」と「これからのこと」を一緒に考えていく姿勢をもって支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ユニットの中に『コミュニティケア』の理念を持ち込んで、「共生の空間づくり」を意識している。「本人の存在」「本人の役割」をスタッフ全体が認知し、日々の笑顔が醸成できる関係づくりに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>毎月の手紙や面会時に、日々の暮らしぶりを伝え、ご本人と家族とのかけ橋になるよう努める。また、家族会や外出行事などに積極的に参加を求め、「家族にしか担えない役割」を担って頂いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族以外の馴染みの関係(友人・知人との関係)が続けられるよう、面会時受け入れに配慮している。また、「家庭訪問」を実施する中で、本人も一時帰省し、「懐かしい知人との再会」や「思い出の場所の散策」などを行っている。</p>	<p>定期的に、入居者と家庭訪問に出かけられています。また、訪問の際には馴染みの場へ立ち寄るなど、入居者一人ひとりの思いを大切にされています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニットを一つの地域として捉え、『コミュニティ・ソーシャル』の考えをもった関係づくりを意識している。体調不良の隣人(隣の居室)を見舞ったり、入院中の利用者を看まいに行ったり…など、地域生活では当たり前であろう「社会性への支援」に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人の「これまでの生活」大切に、「家庭訪問」を行わせて頂中で、「これからの生活」の支援策を組み立てている。その実践にあたり、出来るだけ家族が負担感を感じないよう、役割を分担し、相談・援助を行っていくよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「私の気持ちシート」を活用するなど、認知症により「思いを伝えることが難しい利用者」の願いを推察するための手法を駆使しながら、「本人主体」の介護を目指している。	入居者の生活背景を把握し、一人ひとりの特性を活かすよう支援されています。また、日々の暮らしの中で、できるだけ入居者とコミュニケーションをとり、思いを汲み取るよう努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族より昔の「回想」を聞き取ったり、長く勤めているスタッフが知り得ている情報より「過去の状態」の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	『自立支援』を基調に、日常の中で「出来ること」については、出来るだけ多く「役割」と「関わり」関わりをもって本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>「チームケア」による「個別ケア」について、『ケアプラン(ケアマネ)勉強会』を定期的開催している。日々の記録やアセスメント、職員の意見等から課題を抽出し、「本人らしさ」「豊かさ」を追究した介護計画の作成に努めている。</p>	<p>モニタリングから把握できる入居者の状況を整理し、計画作成担当者を中心に職員や関係者の意見を取り入れながら、現状に即した計画が実行されています。ホームでは、介護計画が「その人が幸せになれるようなプラン」として作ることを心がけておられます。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子や気づきをサービス記録に記入しスタッフ間で情報交換している。『にっこり・モット報告書』により、「笑顔の状態」「気持ちが安定している状態」の継続を図り、「介護の個別性」の大切さを理解し合いながらチームケアを実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>希望する病院やかかりつけの病院への通院(なるべく家族の方をお願いしている)必要な物品の買い出しの同行など行っている。ドライブ・外食・散髪の支援を行うなど柔軟に対応している。また、他施設(八幡の里)との「行事の乗り合い」等により、日常の「豊かさ」への支援を工夫している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に参加して季節感を味わってもらい地域の方々との交流を図っている。ボランティア(佐伯区ボランティアセンターとの連携)や異種企業(ヤクルト・ビューティー)の貢献活動を受入れて、利用者の「お化粧品教室」など、利用者の「豊かさ」の支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の往診時に職員が対応して日頃の様子を伝えている。体調不良や急変時にはかかりつけ医師に連絡し利用者の日常の健康管理に生かしている。</p>	<p>かかりつけ医への受診は、家族の付き添いを基本に行われています。医療に関する情報を家族と共有し、家族と医師が連携を図りながら健康管理に取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日常的な「報・連・相」はもとより、「オンコールシステム」により、看護職員は緊急時に現場とアクセスができるよう「PHS」を常に携帯し、適切な医療アドバイスが出来る状況を作っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療連携(スーパーバイズしてくれるDr)については、大変充実していると理解している。定期的な往診により、利用者の病状把握を徹底。医療機関への緊急搬送時も付き添って頂いたり、医療機関相互の情報提供を迅速に行なっていたいただいた経緯がある。現場スタッフが安心して介護業務に携われる状況がある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>「終い」のことについては、「早期に」ということではなく、ご家族の思いをくみ取りながら、現状を理解・得心して頂くことを大切にしたいと考えている。「家族に加えて、私たちスタッフも家族」という考え方の基に、「これから」を話し合って支援している。</p>	<p>入居時に看取りについて話し合いをされています。また、その都度意向を確認しながら、医師と職員が連携し、できる限りホームで最期まで穏やかに暮らせるよう取り組まれています。訪問日には、看取りを行った家族がホームへ訪問され、深い信頼関係が築かれていることが確認できました。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>繰り返しの研修による実践力の強化とマニュアル化による対応力の備えをしているというのが現状。特に、夜間時(夜勤者1名)の際の「立ち回り」についてマニュアルの内容を徹底している。今期より「防犯システム」も導入し、事故発生時には警備会社の応援要請も可能となった。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回消防署より避難訓練を指導してもらっている他、町内会組織による「防災避難訓練」に参加。利用者のみならず、地域要援護者の避難助助の支援が出来るような体制を意識している。また、施設を「災害時の避難場所」として活用して頂けるよう啓発している。</p>	<p>災害時の避難場所を地域とホームがお互いに提供し、話し合いをされています。災害時の助け合いに、ホームとしてできることを地域と一緒に考えておられます。また、災害の際は関係機関へ速やかに通報できるような装置が完備されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「敬う」という言葉の理解を共有し、「接遇」の視点から、接遇委員会を中心にスタッフの倫理観を磨いている。「認知症だからわからないだろう」という偏見の排除も大切な作業であると理解している。	利用者一人ひとりの人格を尊重しながら、プライバシーを損ねないよう、穏やかな声かけがされています。また、職員は言葉かけや対応など、気づきがあれば全員で話し合いの場を設け、本人主体の支援となるよう努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の中に「選択肢」を増やし、自分に特化した何某が選べるような工夫に心掛けている。現状では、特に「食」ということをテーマに、不定期ではあるが『アイリーフ亭』と称したレストランをフロアに設け、十数種のメニューから好きなものを選び、食のバリエーションを楽しんでもらうなどの工夫を凝らしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「日課表」を排除。「一日を単位とした利用者各々の過ごし方」を模索し、出来るだけ本人のペースにあった「暮らしぶり」の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	「終日、パジャマ。あるいは、ジャージ」ということがないよう、朝は服に着替え、夜はパジャマに着替えるよう夜屋のメリハリをつけるようにしている。本人の「好み」を尊重し、その人らしい身だしなみができるよう配慮している。また、「お化粧ボランティア」に化粧を施してもらい、「写真ボランティア」に撮影を依頼し、身だしなみを楽しむ工夫をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べることへの「動機付け」を大切にしている。「まな板の音」「調理の匂い」「今、〇〇を作っています」という言葉による周知を行い、調理、配膳に関わりをもっていただくことで食事が楽しみなものとなるように支援している。また、外食や「アイリーフ亭」(施設内レストランの運営/不定期)で食を楽しんで頂く工夫をしている。	ホーム菜園で採れた旬の野菜が食材として使われることもあります。また、入居者ごとに好きな物を提供する機会を設けられており、「食べる」ことが楽しみにつながるよう支援されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>「どうしたら食べて頂けるか？」「どうしたら飲んで頂けるか？」…について，単に「嗜好」や「量」「とろみ」という発想に依拠するのではなく，「環境反応」という視点も含めて，器や光，音などの配慮をもって支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後声かけをし，口腔内に汚れを残さないよう支援し，介助が必要な方は職員が口腔ケアを行ない一人ひとりに応じた口腔ケアを心がけている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレが可能な方はできるだけトイレに行き，パットの利用などは清潔に心掛け支援している。</p>	<p>排泄チェック表やその日の状態で一人ひとりの排泄リズムや課題を把握し，声かけ・見守りを徹底し，自立に向けた支援をされています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>「周辺症状の緩和」も視野に入れ，「水分」「栄養」「運動」の不足に留意して，便秘の解消に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>利用者様の希望があれば，時間帯に関係なく入浴していただき，入浴を希望しない場合でも声かけに工夫をし入浴の楽しさ心地よさや清潔を保てるよう支援している。</p>	<p>午前の入浴が基本ですが，入居者の希望や状況に応じて支援されています。また，会話の内容や話しかけるタイミングに配慮し，入浴を楽しみに感じてもらえるよう努められています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠たいときはお部屋にお連れして休息していただき安心して休息できるお部屋の状態を作るよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりが使用している薬を理解し、間違いがないよう職員どうし確認し合い安全(申送りの徹底)に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	「本人の生活歴を理解することが大切である」というスタッフ共通の認識の基に『家庭訪問』を実施し、「これまでの生活」を出来るだけ多く「今の生活に持ち込む」よう努めている。それを基に、本人に特化した「楽しみごと」を醸成していけるよう工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	「一人ひとりのその日の希望にそって…」という対応は、理想ではあるが『努力目標』として理解している。その日の「体制」により支援にバラつきが生じているというのが現状。「外出支援」の解釈から外れるかもしれないが、天気の良い日の「外気浴」については、意識的に取り組んでいる。また、日常的に、隣接の『八幡の里』との交流をもって「お出かけ」というスタイルをとっている。家族にも、「日帰り帰省」や「買い物」に付き添って頂けないかと積極的にアプローチしている。	天気の良い日には、ホーム周辺を散歩され気分転換を図られています。訪問月には、貸切バスで岩国へ出かけ、ホテルで食事を楽しまれた風景を確認することができました。家族の協力を得て「出かける」という気持ちを大切にした外出支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の思いに出来るだけ沿えるよう、ご家族の了解(紛失した場合などの理解)のもとに現金を所持頂いているもおられる(全体で3名)。しかし、金銭管理が難しい方が殆どで、現状では、「本人のお買物は立て替えて、ご家族に請求」という方法をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望に応じて、家族とのアクセスを支援している。ただし、電話においては、夜間など常識を逸脱していると思われる状況の時を除く。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明（明かり）や装飾など、工夫・配慮が欠けている点は多々あるように感じる。「監視」「管理」になっていないか、今一度、第三者の視点で評価頂き、正常化していくことが大切であると考へ、外部よりボランティアを受け入れて、「ボランティアによる施設内点検」の実施を検討している。	リビング・台所・食卓が一体的な造りになっており、開放感があります。ゆったりとしたソファは、テレビ観賞や会話を楽しむなど自由に時間を過ごせるよう配置されています。壁面には、入居者の作品を掲示するなど、特技を披露できる場を設けられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	物理的な問題もあるが、ソファや簡易的なテーブルなどで、環境への配慮を行っている。そこで利用者様の思う様に過ごしてもらっている。スタッフも混ざり談笑している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド以外は利用者様の以前からの馴染みの物(家具・調度品・小物など)を自由に持ち込んで使っている。	入居者は使い慣れた家具や馴染みの品を持ち込み、個性に合わせて居心地良く生活できる環境になっています。家族との写真を飾る入居者もおおり、親しみを持てる部屋づくりをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	「行動への動機付けになるもの」の工夫に努め、利用者様自身で出来る事は見守りながら自らやって頂ける様に声かけをしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	『暖かい家庭の雰囲気そのままに』を理念とし、各ユニットに掲示。カンファレンスの際に唱和し、「どのようにしたら家庭的な雰囲気が醸し出せるか」と、職員全体で話あっている。また、法人理念である『光をもって道を照らし介護に使命を率先垂範する』を実践していくため、地域包括支援センターなどの外部機関とのノウハウの共有に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会組織に属し、町内の行事やお祭りなど、「利用者と地域が繋がる場」づくりに努めている。また、地元の保育園園児の皆さんとの交流や中学生の「職場体験の受け入れ」などを通じて、世代間交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域介護教室や認知症サポーター養成研修などの啓発者(講師)として、認知症の理解や接し方や近所付き合いの大切さなどの紹介や講演をしている。また、地域の皆様が気軽に相談に来られる「介護相談窓口」であることの掲示を入り口に掲げている。認知症の家族の会との連携による研修にも企画・参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2か月ごとに開催している。会議では、利用者の暮らしの様子等を報告し、参加メンバーから、質問や意見の情報交換の場となっている。また、参加された方々より地域行事(とんど祭り、運動会、敬老行事、秋祭りなど)へお誘い頂くなど、本会議が地域と利用者を繋ぐパイプとなっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	佐伯区行政(長寿社会課・介護保険課)、認知症アドバイザー連絡会との連携による「認知症介護啓発」や、佐伯区社会福祉協議会・佐伯区ボランティアセンターと連携をとり、外部からの支援者を受入れることにより「日常の変化」「楽しみの工夫」について協力を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束」ということについて、スタッフ全体が認識を共有するために、マニュアルを活用した研修会を行っている。居室出入り口はもとより、ホール出入り口の施錠、ベッド柵や車イスの利用用途など、いろんな角度からの推移を基に、その考え方を広げ、確認し合っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部講師を招いての研修会を企画・実施。他の介護事業所へも参加を呼び掛け、学習の場を共有する中で、情報交換を行っている。スタッフ間において「その声掛けは、どうなのか」「自分が言われたらどうなのか」など、「無意識のうちにしていること」を話合える雰囲気づくり・時間づくりに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議の中で、ご参画の「地域包括支援センター」より権利擁護に関する制度、成年後見制度等をご教示頂いている。また、当法人の顧問弁護士より必要の都度、助言を頂き、利用者家族に情報提供を行っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>「説明した」と「説明できた」ことの違いを肝に銘じ、契約時には、出来るだけ「解りやすい表現」をもって説明をさせて頂いている。また、契約後も、不安や疑問などあればいつでも、必要の都度対応させて頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>「直接、口に出して伝えにくい」という状況への配慮として、毎月のお手紙の中に、「ご意見・ご要望」の用紙と返信用封筒を同梱し、家族会代表へ届くようにしている。また、日頃の場面や家族の面会時、家族会で意見や要望を確認し、出された意見・要望については、リーダー会議で協議し、運営推進会議にて提案。結果について書面や家族会等で家族に周知している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各種委員会を設置し、職場の改善要求やリスクマネジメントなど、代表者(施設長)に意見具申できる環境を整えている。意見を受けた代表者は、法人本部に設置された『五人会(施設長会議)』にて協議し、現場反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	「私のマニフェスト」を個々に掲げ、「なりたい自分像」に向けて、自分で自分自身の研修が企画・実施できる『一日ぶらぶら研修制度』を設け、スタッフのモチベーションアップを図っている。また、毎月、頑張っているスタッフ1名を投票選出(各ユニット)して、讃える『月刊MVP制度』を導入し、「やりがいのある職場づくり」を目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	期毎に『チャレンジシート』を個別に作成。併せて『私のマニフェスト』により、自己目標の設定を行い、「自己課題解決」に向けての研修設定を行っている。法人全スタッフ対象の「スタッフ全体研修」や「管理者研修」などに力を入れ、「外部講師が務まるスタッフの養成」を目標としている。県介護職員研修支援事業によるスタッフの派遣を受け、スタッフが平等に研修を受けられる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	県内のグループホーム連絡会「ぼちぼちいこうねっつ」に参加。交流研修会や親睦会などを共同により企画・実施している。また、内部研修にも積極的に外部への参加呼びかけを行い、研鑽し合う関係づくりに努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	「人間関係の形成」を大切にし、「受容的態度」をもって接することに努めている。特に、周辺症状から本人の「今の気持ち」が洞察できるよう、対面初期の段階より「私の気持ちシート」を活用するなど、現状分析による信頼関係づくりに力を入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>「私たちが家族であるという考え方」に共感して頂くよう働きかけをしている。その上での、「すべてをGHが担うのではなく、役割を分担しての介護(看取り)を行いましょう」との申し合わせが、信頼関係を形成していくと理解している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>「本人ニーズと家族ニーズは、凡そ対峙していることが多い」ということを理解した上で、「まずは、家族の相談(悩み)を受容することからスタートしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>1階と同様に、ユニットの中に『コミュニティア』の理念を持ち込んで、「共生の空間づくり」を意識している。「本人の存在」「本人の役割」をスタッフ全体が認知し、日々の笑顔が醸成できる関係づくりに努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>毎月の手紙や面会時に、日々の暮らしぶりを伝え、ご本人と家族とのかけ橋になるよう努める。 また、家族会や外出行事などに積極的に参加を求め、「家族にしか担えない役割」を担って頂いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族以外の馴染みの関係(友人・知人との関係)が続けられるよう、面会時受け入れに配慮している。 また、「家庭訪問」を実施する中で、本人も一時帰省し、「懐かしい知人との再会」や「思い出の場所の散策」などを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	『コミュニティ・ソーシャル』の考えをもった関係づくりを意識している。体調不良の隣人(隣の居室)を見舞ったり、入院中の利用者を看まいいに行ったり…など、地域生活では当たり前である「社会性への支援」に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人の「これまでの生活」大切に、「家庭訪問」を行わせて頂く中で、「これからの生活」の支援策を組み立てている。その実践にあたり、出来るだけ家族が負担感を感じないよう、役割を分担し、相談・援助を行っていくよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	「私の気持ちシート」を活用するなど、認知症により「思いを伝えることが難しい利用者」の願いを推察するための手法を駆使しながら、「本人主体」の介護を目指している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族より昔の「回想」を聞き取ったり、長く勤めているスタッフが知り得ている情報より「過去の状態」の理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	『自立支援』を基調に、日常の中で「出来ること」については、出来るだけ多く「役割」と「関わり」関わりをもって本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>「チームケア」による「個別ケア」について、『ケアプラン(ケアマネ)勉強会』を定期的開催している。日々の記録やアセスメント、職員の意見等から課題を抽出し、「本人らしさ」「豊かさ」を追究した介護計画の作成に努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子や気づきをサービス記録に記入しスタッフ間で情報交換している。『にっこり・モット報告書』により、「笑顔の状態」「気持ちが安定している状態」の継続を図り、「介護の個別性」の大切さを理解し合いながらチームケアを実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>希望する病院やかかりつけの病院への通院(なるべく家族の方をお願いしている)必要な物品の買い出しの同行など行っている。ドライブ・外食・散髪の支援を行うなど柔軟に対応している。また、他施設(八幡の里)との「行事の乗り合い」等により、日常の「豊かさ」への支援を工夫している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に参加して季節感を味わってもらい地域の方々との交流を図っている。ボランティア(佐伯区ボランティアセンターとの連携)や異種企業(ヤクルト・ビューティー)の貢献活動を受入れて、利用者の「お化粧品教室」など、利用者の「豊かさ」の支援を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の往診時に職員が対応して日頃の様子を伝えている。体調不良や急変時にはかかりつけ医師に連絡し利用者の日常の健康管理に生かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日常的な「報・連・相」はもとより、「オンコールシステム」により、看護職員は緊急時に現場とアクセスができるよう「PHS」を常に携帯し、適切な医療アドバイスが出来る状況を作っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療連携(スーパーバイズしてくれるDr)については、大変充実していると理解している。定期的な往診により、利用者の病状把握を徹底。医療機関への緊急搬送時も付き添って頂いたり、医療機関相互の情報提供を迅速に行なっていた経緯がある。現場スタッフが安心して介護業務に携われる状況がある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>「終い」のことについては、「早期に」ということではなく、ご家族の思いをくみ取りながら、現状を理解・得心して頂くことを大切にしたいと考えている。「家族に加えて、私たちスタッフも家族」という考え方の基に、「これから」を話し合っ支援している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>繰り返しの研修による実践力の強化とマニュアル化による対応力の備えをしているというのが現状。特に、夜間時(夜勤者1名)の際の「立ち回り」についてマニュアルの内容を徹底している。今期より「防犯システム」も導入し、事故発生時には警備会社の応援要請も可能となった。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回消防署より避難訓練を指導してもらっている他、町内会組織による「防災避難訓練」に参加。利用者のみならず、地域要援護者の避難介助の支援が出来るような体制を意識している。また、施設を「災害時の避難場所」として活用して頂けるよう啓発している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「敬う」という言葉の理解を共有し、「接遇」の視点から、接遇委員会を中心にスタッフの倫理観を磨いている。「認知症だからわからないだろう」という偏見の排除も大切な作業であると理解している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の中に「選択肢」を増やし、自分に特化した何某が選べるような工夫に心掛けている。現状では、特に「食」ということをテーマに、不定期ではあるが『アイリーフ亭』と称したレストランをフロアに設け、十数種のメニューから好きなものを選び、食のバリエーションを楽しんでもらうなどの工夫を凝らしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「日課表」を排除。「一日を単位とした利用者各々の過ごし方」を模索し、出来るだけ本人のペースにあった「暮らしぶり」の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	女性利用者の中には、毎日「お化粧」を施される方もおられ、スタッフも意識的に「お綺麗ですね」などの言葉掛けを留意している。衣類や装飾品などのコーディネートについて、スタッフに相談される利用者もおられる。また、男性利用者の方には、「髭剃り」や「整髪」などの身だしなみについて言葉掛けさせて頂いている。「一日一回は、鏡にご自分の姿を映してみる」という動機づけを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	「楽しく食べる環境づくり」ということに力を入れている。俗に言う「スタッフも環境の一部」であると得心し、「会話を楽しみながら」に留意すれば職が進む人、「ザワザワの中では、食が進まない人」など、「食環境」について配慮をしている。また、役割としての「配膳・準備」「片付け」などもお手伝い頂き、お互いが「感謝」しながら、テーブルを囲めるような雰囲気をつくっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>「周辺症状」の緩和策という意識を強調した上で、「栄養」「水分」の摂取は、チームケアの課題であると理解している。現状では、この両者については、ほぼ充足していると自負しているが、運動が伴っていない状況がある。「運動」面に力を入れ、「排泄パターン」を充足することが、今の課題である。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後毎、口腔ケアについて食後声かけをし、口腔内に汚れを残さないよう支援している。「口腔内を清潔に」と本人へ語り掛けながら、義歯の手入れなども本人と共にを行うように努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>本人のプライドを考慮し、トイレ誘導の仕方について気を配っている。「排泄パターン」について、本人のパターンではなく、「スタッフが作ったパターン」にならないよう、その関わりは、現状での大きな改善テーマであると理解している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>「食の支援」に連動して、「食習慣」「運動」「排泄」ということをパッケージとして考え、「食べて頂く工夫」「飲んでいただく工夫」を常に意識し、「食べようとしなかった」「飲もうとしなかった」で完結しない介護に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>その日その日の体調と希望があれば、入浴して頂き、清潔を保てるよう支援している。また、入浴を拒む方の場合、石鹸の香りやバスオールの感触などの強化刺激により、動機付けを行うなどの工夫をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	「個別援助」ということについて、常にスタッフ間で議論している。「ベッドか敷布団か」…など、「個々の生活様式をどこまで保障できるか」については、もっと議論が必要である。現行の状態の中に「異常」が幾つあるかを考え、「アイリーフの個別援助」を完成させたいと思っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	「ヒヤリハット」への登場頻度が高いのが、「服薬に関すること」である。本人の病状と薬の効果・効能を理解し、間違いがないよう職員どうし確認し合い安全（送り届の徹底）に努めることを留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	『家庭訪問』を実施し、「本人の過去の理解」に努めている。本人の過去に触れることで、本当の意味での「その人らしさ」への支援ができると解釈している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	1階フロアに共通で、「一人ひとりのその日の希望にそって…」という対応は、理想ではあるが『努力目標』として理解している。その日の「体制」により支援にバラつきが生じているというのが現状。「外出支援」の解釈から外れるかもしれないが、天気の良い日の「外気浴」については、意識的に取り組んでいる。また、日常的に、隣接の『八幡の里』との交流をもって「お出かけ」というスタイルをとっている。家族にも、「日帰り帰省」や「買い物」に付き添って頂けないかと積極的にアプローチしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の思いに出来るだけ浴えるよう、ご家族の了解（紛失した場合などの理解）のもとに現金を所持頂いているもおられる（全体で3名）。しかし、金銭管理が難しい方が殆どで、現状では、「本人のお買物は立て替えて、ご家族に請求」という方法をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族との繋がりを大切に、ご家族との合意の上で「定期的な来訪」「電話などでの連絡」をお願いしている。電話においては、夜間など常識を逸脱していると思われる状況の時を除く。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境への配慮については、スタッフ相互「気付いた者が声を出して改善に努める」ことを確認し合っている。「照明はどうか？」「食事の際の席順（隣同士の間関係）は？」「テレビのボリュームは？」など、共有空間（環境）の問題は大きい課題として理解している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ユニット内の「人間関係」ということへの配慮を大切にしたいと考えている。現状においても、配慮していると評価するが、ソファやテーブル、畳の空間など、利用者のこれまでの生活背景を汲み取った環境づくり（アイテムの整備）を実践していきたい。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人のお気に入りの品、写真などを装飾しているが、「暮らしの場」としての空間づくりということ考えると、配慮が足りない面が多い。本人の「自分らしさ」と「これまでの生活様式」が保障される環境づくりについて考えていきたい。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	このことについては、スタッフ各々の「認知症の受容（理解）」と「対応へのスキル」に係ってくと理解している。「出来ること」「わかること」をスタッフが共通に理解し、共通の支援が出来るよう、「私の気持ちシート」などを活用し、「本人主体」の介護に努めている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームアイリーフ五日市

作成日 平成 24 年 1月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		介護支援サービス（ケアマネジメント）のスキルアップを図る	「暮らしの計画書」（ケアプラン）が、ご本人の可能性を大切にしたい「幸せ計画書」として、目標を設定し実践しご本人の満足度アップを図る	定期的な内部・外部研修や、カンファレンスによる自己実現の成就・引き出す力・整理する力・表現する力・分析する力・伝達する力を身につける。	1年間
2		「地域密着」を意識し、ご利用者様個々の「社会性」を育む。	地域ボランティア（地区社協、佐伯区ボランティアセンター）との交流を通じ、「地域所属意識」の高揚を図る。	平成23年度より実施の「空き家プロジェクト」（空き家を借り受けての地域交流スペースづくり・逆デイサービスの取り組み）により、地域ボランティアとの交流を図る。	1年間
3		会社理念に則しての「地域貢献活動」の展開。	『光をもって道を照らし、介護の使命を率先垂範する』（会社理念）に順守し、介護・福祉行政に協力して、高齢者介護・認知症介護の啓発に努める。	「認知症サポーター養成講座」や「家族介護者教室」などの実施について、積極的に参画し、日常業務にて培ったノウハウを地域へ提供する。	1年間
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。